

道教大附属函館中 探究発表会

自ら行動し学びを得て

3年生が1年間の成果報告



ら行動して学びを得る大切
さを実感した。

3年生は総合的な学習の
時間において、地域課題を
テーマに据えた個人探究を
推進。活動成果は論文にま
とめるほか、発表会におい
て下級生や活動協力者、保
護者らに広く普及してい
る。

一人は、日本とイギリス
のハーフである自身の出自
を踏まえ、全国的に増加し
ている在住外国人の暮らし

に注目。観光客
にとどまらず永
住者も増える
中、暮らしやす
い環境に向けて
言語の壁や生活
の安定、差別・
偏見などの課題
を提示した。

あったことに触れ「サポー
ト内容を明らかにして発信
する必要がある」と強調。
差別や偏見の解消に向けて
は、市青少年研修センター
への取材で得た、異文化交
流や人材活用等に関する取
組を紹介した。

また、国際交流イベント
に参加して「互いを知る機
会を増やすことが大切」と
の思いを持ち、「異文化交
流の機会をつくり出した
い」と展望を描いた。高校

進学後、在住外国人の声を
踏まえつつ、日本文化を
知ってもらおうイベントの企
画を考えている。

発表後、生徒は「イベン
トへの参加が多く、探究がな
かったらできなかったこと
と、していなかったことが
多い。実際に行動すること
で学びを得ることができ
た」と探究過程を振り返っ
た。

生徒の論文作成に当た
り、道教育大地域協働専
攻・国際協働グループ2年
生11人が添削に協力。10月
から2回ほど、結果と考察
の違いなどの論文を書く上
で必要な視点について指導
した。

発表会に訪れた高階由香
理さん、猪狩桃花さんは中
学生に伝わるようかみ砕い
て説明することを心がけ
た。教職志望のため、今後
に生きる経験になった
「指導する中で、自分も論
文の書き方を深く理解する

きっかけになった」と振の
返った。

高校生就業体験
発表会受付など

同校は9日から2日間、
函館中部高校、函館西高校
の2年生3人によるイン
ターンシップを受け入れ
た。高校生たちは授業見学
や指導補助、座談会に加
え、探究発表会の受付や案
内「写真」を体験した。

高校生3人は、道教育大
附属函館中の卒業生。教職
に関心があり、同校でのイ
ンターンシップを希望し
た。

教職員の役割に関する説
明や授業見学等を経て「中
学時代は気にしていなかっ
たが、30人以上の生徒を先
生1人でまとめるすごさに
気付いた」「教科指導だけ
ではなく校務分掌などの業
務もあって大変そうだが、
やりがいがありそうだと感
じた」と感想を寄せた。

【函館発】道教育大学附
属函館中学校（小林真二校
長）は12月上旬、同校で探
究発表会を開いた。写真
。3年生96人が下級生や
保護者らに向けて1年間の
探究成果を発表。生徒の一
人は「探究がなかったらで
きなかったこと、していな
かったことが多い」と、自